
けいおん! & リリカルなのは LOVE!GENE!RADIO!

伝説・改

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！&リリカルなのは LOVE! GENE! RADIO!

【著者名】

【Zコード】

N9781M

【あらすじ】

これは、「けいおん！ LOVE! LOVE! LIVE!」シリーズを元にしたよくあるラジオ風小説です。

簡単に言えば「けいおん！」の「けいおん！」バージョンです。

暇な時でもどうぞご覧下さい。パーソナリティは日暮遼祐と平沢唯でお送りします。

感想制限でユーチャーのみになっていた制限を解除しました。

皆さん、是非感想をください！

2不定期更新です。

第〇回「登場人物紹介つてのはたまにとんでもないネタばれがあつたりする」

名前：日暮 遼祐
ひぐらし りょうすけ

詳細：『けいおん！ LOVE！ LOVE！ LIVE！』『けいおん！ LOVE！ LOVE！ LIVE！アンコール！』の主人公。そしてこのラジオのパーソナリティの一人だが、イマイチ乗り気じゃない。（多分）

オタク・女好き・ヘタレ・ツンデレで簡単に言えば西條拓巳と当真大河を足して白銀武で割った様な人物である。

女好きだが絶対に浮気はせず、唯の事を表にはあまり出さないが溺愛している。

イメージCVは前野智昭。どうりでヘタレな訳である。（冬 弥的な意味で）

名前：平沢唯
ひらさわ ゆい

詳細：『けいおん！ LOVE！ LOVE！ LIVE！』『けいおん！ LOVE！ LOVE！ LIVE！アンコール！』のメインヒロイン。

このラジオのパーソナリティの一人で、かなり乗り気。天然でドジっ子で貪乳と言う好きな人はどことん好きそうな属性を持っている。だがそれがいい。

ちなみに遼祐一筋で、遼祐も唯一筋である。このバカッフルどもめ。

CVは豊崎愛生。多分彼女の一番のハマり役だと思つ。

この一人が、本ラジオのパーソナリティである。

……本当にこの二人に任せて大丈夫なのだろうか？作っている本人も心配になってきた。

第1回「何事も最初が肝心。だからこのグタケタ感は正直ひづみへ」

遼祐「えつとだな……唯、何これ?」

唯「ここはラジオ番組を収録するブースだよ、りょくくんなら分かると思うけど……」

遼祐「いやそれは分かつてる。しかし…しかしだなーなんで小説でラジオなんだ!?」

唯「しようがないよ。作者さんがうたわれるものうじおとうじおん!を聞いた影響でやつちやつたから……」

遼祐「なんでお前が裏事情知つてんだ。って言つた作者いいかげんにしる。……その前にどうせどいかのとあ新らじおでも見て思いついたんだろう?」

唯「始めた理由も一緒にしね」

遼祐「このままパクリとか言われて消されても知らんからな俺は」

唯「じゃあ、始めよつか!」

遼祐「もうやるのー?」

遼祐「けいおん!」

唯「LOVE! LOVE! RADIO!」

遼祐・唯「始まるよ~!~!」

OP(Outro!! MIRACLE)

遼祐「えつと、こんにちは。『とらあめず』パーソナリティーの田

暮遼祐です」

唯「こんにちはー!パーソナリティーの平沢唯です!」

遼祐「……なあ、やっぱ痛いわ。うん、痛い」

唯「まあまあ、ゲストさんがくればきっと大丈夫だよ

遼祐「そういう問題なのかよ……」

唯「えっと、じゃあゲストは……あれ、今日はいりませんか?」

遼祐「マジかよ……こんなグダグダ展開で大丈夫かよ……」

唯「まあきっとね、うん。大丈夫だよ」

遼祐「……本気で心配になつてきた」

唯「えっと、このラジオ（小説）は『けいおん！－LOVE!－LOVE!－LOVE!－』及び『けいおん！－LOVE!－LOVE!－LOVE!－』の情報をお送りするラジオ（小説）です！」

遼祐「他にもゲストを呼んでトークしたり裏事情を話したりします」

唯「第1回だからゲストは無しだから……りょうくんと一人でラブラブトークします」

遼祐「いやしねえから」

唯「……ケチ」

『じーじょうかいこなー』

遼祐「このコーナーは、パーソナリティの俺や唯、そんでゲストが自己紹介して俺が毒舌でツッコむコーナーです」

唯「最後の方は違うよ～！」

遼祐「えっと、じゃとりあえず唯から」

唯「え～、りょうくんからだよ～。主人公じゃ～ん」

遼祐「あのだな、こういう小説は、基本ヒロインがメインなの。主人公はあくまで視聴者の代わり。おｋ？」

唯「じゃあ……3年2組、軽音楽部所属の平沢唯です。ポジションはギターです。好きな物は甘い物とりょくくんです？」

遼祐「俺は食べ物扱いか。って言つかそれは普通俺が言わなければならないだろう」

唯「……」

遼祐「何この空氣……」

唯「え、えつと、うん。以上です」

遼祐「そんだけ!/?もうちょっとないの!/?」

唯「えへ、どんな事言えば分かんないよ~」

遼祐「ほらあるじやん。毎日家でゴロゴロしてるとか」

唯「『ロロ』してないよ~。ちゃんとギー太で練習してるんだよ~！」

遼祐「まあそりゃ分かつてるけど。ああ、あれはどうよ?毎日俺とゲームすると負けるとか」

唯「だつてりょうくんとゲームすると全部強いんだも~ん、まるでわたしの行動が分かつてるみたいなんだよ?」

遼祐「お前の動きがワンパターンなだけ。……他にはなんかなかつたつけ?」

唯「う~ん……まあいいや。じゃあ次はりょうくん!..」

遼祐「もう俺かよ。えつと、3年2組軽音部所属の日暮遼祐です。ポジションは唯と同じくギターです。……以上」

唯「それだけ!?」

遼祐「他に言う事ないだろ。何言えばいいんだ」

唯「好きな食べ物とか、名前の由来とか」

遼祐「あ~……あんまりにもノーマルだけどいいか。好きな食べ物はフライドポテトとステーキ丼で、名前の由来は……まあプロフィール見て」

唯「ちやんといいなよ~」

遼祐「だるいんだよ。……えつと、名字の日暮はゲーム『ひぐらしのなく頃に』からで、名前の遼祐は『頭文字D』の高橋涼介からだつて」

唯「二つとも作者さんが好きなアニメとゲームだよね?」

遼祐「元々俺の存在はな、作者が作った別の小説で既に作られてたんだよ。作者無駄に俺の事気に入ってるから。気に入つてると言う

か主人公らしい人物が俺しかいないからだつて」

唯「……それつて考えるのが面倒だつただけじゃ？」

遼祐「……『ほん、そういうえば唯の名前も、確か平沢進つて人から来てるんだよな？』

唯「うん。P・MODEって言つ実在する音楽グループにいる人からなんだよ」

遼祐「じゃあ俺やオリキヤラの浩史とか白銀つてかなり関係ないところから来てるんだな……なんか悲しい」

唯「ううん、そうだ！新しい名前考えてみようよ！」

遼祐「今から！？……でも福間とか三浦以外な

唯「どうして？」

遼祐「同じ名前のオリ主がいるから」

唯「？」

遼祐「……なんでもない、とりあえず今考えたつてしまふがないだろうに」

唯「そうだよね～」

遼祐「そうだよねじやねえよまったく……」

『みんなのしつもん』へな～！

唯「このコーナーは、読者のみなさんから寄せ集められた質問に答える『一ナード』！」

遼祐「ちょい待ち」

唯「どうしたの？」

遼祐「読者のみなさんからつて……一通もないぞ？」

唯「うん。だから今回は作者さんが適当に質問を作つて、それに答えるんだつて。あと、作者さんの友人さんの質問も出るつて」

遼祐「……なんだろう、質問が作者が作った物だけになりそうな気がしてきた」

唯「じゃあまず最初の質問！これは作者さんの友人からの質問だよ

【どうして『けいおん！－LOVE!－LOVE!－LOVE!－』を作ったと思つたのですか？】

遼祐「俺たちに聞いてどうすんだよそんな事！作者に聞けよーーー！」

唯「まあまあ。いちおう、わたしたちも知つてるんだから……」

遼祐「そりやそうだが。……おほん、企画自体はけいおん！が放送された当時からあつたんだけど、小説を作つても投稿する場所を作者が知らなくてそのまま放置だつたんだけど、けいおん！－が放送されてオリ主小説を作者が見ているときに、この『小説家になろう！』を知つて、作り始めたんだってよ！」

唯「ちなみに当初はたまに言つてるハーレムルートにじょひと思つてたらしいよ。……ねえねえりょうくん」

遼祐「どした？」

唯「はーれむつて何？」

遼祐「俺や某救世主が目指してるもの」

唯「？」

遼祐「……さて、もういいだろ？ 次のコーナーへ行こ！」

唯「もういいのー？」

遼祐「だつてこれぐらいしかないだろ友人の質問。それに作者の作った質問なんか意味ないじゃねえか」

唯「そうだよね……」

遼祐「とまづ訳で、ここまでで。次のコーナーへGOー！」

『けいおん！』－いんふぉめ～しょん！』

遼祐「このコーナーは、『けいおん！－LOVE!－LOVE!－LOVE!－』（以下『けいおん！』）や原作の（漫画・アニメを含む）『けいおん！』の最新情報についてのコーナーです！』
唯「りょうくんノリノリだね」

遼祐「はつ！つい！」

唯「あずにやんみたいな言い訳はよしないよ～」

遼祐「いい訳じやないんっすけど……」

唯「えつと、今回は何の情報についてなの？」

遼祐「なんと！原作漫画本のけいおん！の第4巻が発売決定しました！」

唯「お～」（パチパチ）

遼祐「……以上」

唯「えつ！？」

遼祐「嘘だよ。実はな、最近なんとーこのけいおん！ーーと、鮮血の刻印先生の作品『けいおん！Fragelement』の『ラボ小説『けいおん！Cross of Lives!』の第1話が公開されました～！」

唯「すう～い！じゃあお兄ちゃん（英樹）とつょくへんが同じひところにいるのー？」

遼祐「ああ。他にも両作のオリキャラも登場するよ」

唯「すう～いね～、楽しみだよ～！原作本も楽しみだな～」

遼祐「原作本の方は、9月27日発売予定だつて。みんな買ってね～！」

唯「ねえりょうくん」

遼祐「どした？」

唯「……勝手に宣伝しちゃっていいのかな？」

遼祐「……次のパートへ」

唯「えつ！？」

『ゆいちゃんのかわいいせつぶ～な～』

唯「このパートはわたしが可愛いと思つ様な台詞を語るパートだよ！」

遼祐「……ただの唯ファンの為のパートじゃないか」

「醜いよつまうへんたー。やつぱつわたしたしのフタノンジヤなにんだね！」

遼祐「いや、ファン以上の関係だろうが俺ら」

唯「いや～ん、そんなはつきり言わないでよ～」

遼祐「はい台詞ゲット」

「どう云ふ事か——！？」

遼祐一 まあ今のは冗談として、誰にせよ誰へでもらいたい御品を募

集じてそれを詰め、「一九一だよ」

「あるよ。俺があ前にどうしても言つてまし、口説がある」

近藤の「どんなんの？」

遼祐「『わたしを、りよつべんの物にしてください』……。」

唯「

遼祐一夕文？

唯

「わたしを……りょうくんの物にしてください……！」

遼祐「…………」れで毎日のおかずに困らなくなるな

「え？ これってじょんの、」飯にならねー。

遼祐「え？ あ、う、うん。 そうそう。俺の飯になるんだ！」、あはは

五
世

唯一「そこなんだ」

送り物はまだ届いてないで、さすがに心配にならぬまい。

唯「まつてま～す」

卷之二

遼祐「フリー－トークって……何話すんだよ」

唯「ほら、あの事」

遼祐「あれって？……ああそうだつた」

唯「このラジオは読者参加型で、感想の所にさつきの可愛い台詞口
ーナーで言つてほしい台詞や小説の質問などを言つてくれればそれ
を実際に答えたり採用したりします。他にもやってほしい口ーナー
も募集してます」

遼祐「どしどし応募してね～」

唯・遼祐「……」

遼祐「だけ？」

唯「……何かあるでしょ」

遼祐「何かあるでしょじゃねえ！！探せ！！」

唯「あ、そうだ！次からはゲストの人が来てくれるよー！」

遼祐「確か次は……澪だつたつけ？」

唯「大変だつたんだよ～、澪ちゃんをこのラジオに出演させるの」

遼祐「まあまあ、耳ふさいで大泣きしながら嫌がつてたもんな」

唯「うん」

遼祐「……以上。フリー－トークの口ーナーでした」

唯「え！？もうちょっと話そうよ～」

遼祐「お前がそこで終わらすからだらうが！…ちゃんと話を繋げろ

！」

唯「だつて～」

遼祐「まあこれからきちんとしてくれればいいよ

唯「優しいね～、りょうく～ん」

遼祐「……ほつとけ」

遼祐「と言つて、終わりの時間がやつてきました」

唯「早いなあ～、あつという間だつたよ」

遼祐「結構、ラジオも楽しいな」

唯「ふふふ～ん、そうでしよう？」

遼祐「なんでそんなに得意氣なんだよ。思いついたの前じゃないだろう」「元

唯「まあそうだけど……」

遼祐「……とまあこんな感じで、これからも続けていきたいと思いま～す」

唯「これからも、応援してね～！」

遼祐・唯「それじゃあ、またね～！」

第2回「恥ずかしがり屋はクラスに一人はいる。同時に仲良くなれば恋愛フラグ

澪にあんな設定加えてごめんなさい。

でもやつてみたかったんだ。ホントすいません。

第2回「恥ずかしがり屋はクラスに一人はいる。同時に仲良くなれば恋愛フランク」

遼祐「奇跡の2回目だよ。マジで凄いよね」

唯「そうかな?わたしはずっとやるつて思つてたよ」

遼祐「そもそも感想が来たつて言う事が凄いと思つ」

唯「りょうくん、そんなに捻くれてたら嫌われやがつよ?」

遼祐「誰に?」

唯「……じゃあ、始めよっか」

遼祐「あ~、ちょい待ち!! 悪かった!俺が悪かったから!! その前に澪は!?」

澪「……あ~、ちょうどだ~」

唯「み、澪ちゃん! 戻つて来て!!」

遼祐「けいおん!」

唯「LOVE! LOVE! RADIO!」

澪「ははははは、始まりましゅ!!」

OP (Utauuyo!! MIRACLE)

遼祐「え~、皆さんこんにちは。パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じくこんにちは!パーソナリティの平沢唯です!」

遼祐「それについても、まさか2回目だよ。案外評判はよかつたね

唯「本当にみんなありがとうね~!!」

遼祐「俺はつきりパクリとか言われるかと思った」

唯「……ホントにひねくれちゃってるね」

遼祐「ほつとけ。では、今日のゲストを紹介します!放課後ティー

タイム一の極上美女ボーカル&ベース、秋山澪です!!」

澪「……」

唯「澪ちゃん! あいさつ!!」

澪「あ、ああああ、秋山澪でしゅしゅ……よりしあわねめやこしましゅ……」

遼祐「ま、まあ落ち着けつて澪」

澪「だだ、だつてこれ色んな人が見てるんだろ！？ももも、もし律達が見てたら……はう！」

遼祐「大丈夫だって、とりあえずほほり、お茶でも」（ア）

澪「う、うん。」（ズルル…）

唯「ムギちゃんからのお茶だよ。ビバ～」

澪「……美味しい。ちょっと落ち着いたかな？」

遼祐「なら良かった。そんじゅ、早速行きませか」

澪「えつ！？もう行くの！？」

唯「……お茶の効果が無くなつた」

『じじみつけこなー』

遼祐「パーソナリティの俺や唯、そんでゲストが自己紹介するパートです」

唯「わたしたちの前したから、今日からほめゲストさんをするんだよね？」

澪「わ、私が自己紹介するのか！？」

遼祐「大丈夫だよ。ラジオで聞いてる奴はみんな律とでも思えばいい

澪「……なんだか想像すると腹が立ってきた」

唯「そりそりそれだよ！じゃあこの調子でやつてこー！」

澪「う、うん。えつと、秋山澪です。3年2組で所属は軽音部です。楽器はせつきました通り、ベースでボーカルもやつてます」

唯「澪ちゃんのボーカルはいいよね～。ベースもすつゝく上手いからファンクラブが出来ちゃつた程なんだよ～」

遼祐「すごこよな～、ホント」

澪「……」

唯「あれ？ 静ちゃん？」

遼祐「……ファンクラブの事思い出して氣絶したらいい」

唯「み、静ちゃん！ 目を覚まして……」

澪「……はつ……なんだ、さつきまでやつてたラジオは夢だったのか～。そうだよな、私がラジオなんてな～……」

遼祐「だんだん現実逃避し始めたよこの子」

澪「だだだつて！ ファンクラブのみんなはきっとこのラジオ聴いてるはずだから……はうつ！」

唯「……なんだろう、だんだんグダグダになってきた様な気がするよ」

遼祐「大丈夫だよ、元々グダグダだから。それじゃ、次のコーナー行きま～す！」

『みんなのしつもん』～な～！』

唯「わあやつてきました、質問コーナー。みなさんから頂いた質問を早速読んで行きたいと思います！」

遼祐「じゃあ早速……おつ、凄い人からの質問だな～」

澪「誰からなんだ？」

唯「澪ちゃんがいつのまにか復活してる～！」

遼祐「軌融慶先生だな。正しく言えば軌融慶先生の小説に出てくるオリキヤラからの質問だ」

唯「へ～、そうなんだ」

遼祐「んじや早速……え」

澪「どうした？」

唯「早く読んでよ～」

遼祐「……」つ質問が書かれた紙

澪「どれどれ……はうつ……」

唯「ふむふむ、えつとねあの時のじょつくんが一番大好きだ「やめろバカ！～」え～？」

遼祐「えー？じゃねえだろ……」んな質問流せるかバカ……！」

澪「え？って言つか二人とも……はうつ！」

唯「澪ちゃんがどんどん爆発していいてる……」

遼祐「……えっと、この質問の内容は、このラジオの軌融慶先生の感想を」覗くください」

遼祐「んじゃ気を取り直して……、今度も凄い方から

唯「だれだれ？」

遼祐「僚介先生からの質問。えっと……」

【遼祐君に一つ質問！好きなモノはなんですか？】

唯「食べ物かな？」

澪「唯は食べ物から離れる

遼祐「そうだな……まあ、ゲームだね。ギャルゲーとエロゲー。そんで……唯」「

唯「りょうくん……」（ポツ）

遼祐「はまあ好きと嫌いの間だな」

唯「えー！？」

遼祐「……嘘だよ。唯が一番好きです」

唯「わーい！わたしもりょうくん大好きーーー！」

遼祐「（ああ、俺はこうして一生こいつとこんな感じですごしてい

くんだろうなあ……、肩凝りそうだ）」

澪「……じゃあ次の質問行つてみようか。私が読むけどいいな？」

唯「うん！」

澪「えっと、これも僚介先生からだ」

【自分がかわいいと思う動物は？】

唯「わたしは……なんだらうな？全部大好きかな？」

遼祐「へ～、蛇も？トカゲも？ワニも？」いやああああああああ～！」

ああ、悪かつたから澪！落ち着け！！！」

澪「……ごほん、えつと、私はそうだな……可愛いものが好きだな」「わたくしも～！」

遼祐「可愛い動物か……ウサギとか？」

唯「あとパンダとか熊とかブタとか！」

澪「犬や猫も好きだな」

遼祐「なるほどねえ……ちなみに俺も犬は好きだな」

唯「りょうくんも動物好きなんだ～！」

遼祐「そりゃあ……ねえ。まあ人並みには好きだけど。でもなんで？」

唯「りょうくんはなんとなくそういうのに興味無さそうな感じがしてたんだ～」

遼祐「笑顔でそういうなよ。なんか悲しいから」

澪「以上、質問コーナーでした」

唯「はや～？」

遼祐「そしていつのまにか澪が仕切ってるよ～？」

『けいおん』～いんふぉめ～しょん～』

遼祐「えっと、このコーナーは、『けいおん』LOVE! LOVE! LOVE! LOVE!』（以下『けいおん』）や原作の（漫画・アニメを含む）『けいおん』の最新情報についてのコーナーです～！」

唯「あ、そうだ！早速最新情報があるよ～！」

遼祐「なんかあつたか？」

唯「アニメ、『けいおん』の新OPとED『Utawayo!! MIRACLE』と『NO Thank You!!』が発売しました～！」

遼祐「……」

澪「しかも売り上げの方はOPは第3位、EDは第2位の大快挙だ」

遼祐「……」

唯「でも残念だつたな～、一位取りたかつたな～」
澪「仕方ないよ。SMAには流石に勝てるわけないよ。でもこれ

でも十分な結果だとと思うだ？」

唯「そうだよね！ね、りょうくん！」

遼祐「……」

唯「どうしたの？」

澪「待て唯！アニメの方のけいおんには遼祐が出てないから……」

唯「あ！そだつた、ごめんねりょうくん！」

遼祐「……いこせ、いつかけいおん」「がアニメ化する事を俺
は祈つてゐるから」

唯「（それは……）」

澪「（多分……）」

遼祐「無理だよね、分かつてゐるよ。分かつてますよチキショ――――」

唯「心の中が読まれてる！？」

遼祐「……ああ、そだつた。えつと、次回のゲストなんだけど…

…

唯・澪「立ち直つてゐ！？」

遼祐「次回のゲストは、梓だ」

唯「わ～い！次はあずにやんだ～！」

遼祐「そしてもう一人いる」

澪「誰なんだ？律かムギか？」

遼祐「いいや。みんなもびっくりのあの人だよ

唯「だれだれだれ～！？」

遼祐「それは次回をお楽しみに。以上、けいおん」「――いんふあ
め～しょん！でした～」

『りょうくんのおすすめゲーム＆アニメ』～な～！』

唯「このパートナーはりょうくんがお勧めするゲームやアニメを紹介

する「一ナードよ！」

澪「今回から始まる新コーナーなんだな」

遼祐「まあな。唯の台詞コーナーは次回で」

唯「ねえねえ、どんな紹介してくれるの？」

遼祐「えっと、今回はゲームなんだけど……」しかし、戦国BASA

R A 3です！」

唯「あ〜、最近りつちゃんがハマってるゲームだ！」

澪「私も持ってるぞ。歴史上に実在する武将を大胆にアレンジして
る爽快アクションゲームだよな？」

遼祐「ああ。男性だけじゃなくて女性ファンも多くてな。ちなみに
最近作者もハマってる」

唯「だから更新があるそかなんだ最近」

澪「まったく、ちゃんとしないとダメじゃないか」

遼祐「まあまあ。面白いんだから仕方ないよ。さて、まだ発売して
日が経つてないからあんまり詳しい事は言えないけど、面白いよ！」

唯「みんな買ってね〜！」

澪「……前もそうだったけど、勝手に宣伝していいのか？」

遼祐「……えっと、次もゲームなんだけど」

澪「流すな！って言うか次もあるのか！？」

遼祐「デュエルセイヴァーデスティニーって言ひやすのゲームだ

唯「どんなゲーム？」

遼祐「恋愛シミュレーションとアクションゲームを合わせた変わっ
たゲームなんだけど、簡単操作で爽快アクションが出来るゲームだ」

澪「へ〜」

遼祐「後、ストーリーも壮大でな。最後の少年誌的熱血展開には鳥
肌全開だつたな」

唯「おもしろそうだな〜、わたしも買ってみようかな〜」

澪「……あ、確かにを作ったスタッフって他にもアクション+恋
愛ゲーム作ってるよな？」

遼祐「よく知ってるな。バルドフォースエグゼとバルドバレットイ

クリップリアムつてゲームも作ってる

唯「澪ちゃん詳しい~」

澪「いや、歌詞の参考に恋愛ゲームとかはよくプレイしてるから…」

遼祐「……あ、だからマグリーヴとかも知つてたんだ」

唯「以上、りょうくんのおすすめゲーム&アニメコーナーでした」

「！」

遼祐「と書つ訳で、終わりの時間がやつできました~」

唯「澪ちゃん、初めてのラジオどうだった?」

澪「最初は恥ずかしかつたけど、馴れると楽しいな」

唯「また来てね~」

澪「うん!~」

遼祐「そんじや、そういう事で」

遼祐・唯・澪「またね~!~」

第3回「バカップルとよく喧嘩する男女は紙一重」（前書き）

バカップル警報発令中。

第3回「バカップルとよく喧嘩する男女は紙一重」

遼祐「……」

唯「どうしたのりょうくん？なんかテンションが低いよ」

遼祐「いや……なんか今日のゲストがさ……うん」

唯「あ、そういうえばあずにやんど、あともう一人のゲストさんって誰なの？」

遼祐「……多分そろそろ来ると思つ」

梓「せんぱーい！」

唯「あつ、あすにやんだー！」

梓「先輩！紹介します！私の彼氏ですー！」

英樹「よ、一人とも」

唯「お兄ちゃん……つて、もしかして……」

遼祐「梓と、そんでもう一人のゲストは……昨日梓と見事に結ばれた英樹さんだよ」

英樹「じゃあ、今日はよろしく頼むな、一人とも」

唯「わーい！今日はすつじく楽しいラジオになりそうだねー！」

遼祐「なんだらか、この合図つぽいノリは」

遼祐「けいおん！」

唯「LOVE! LOVE! RADIO！」

英樹・梓「始まるよー！」

OP (Cut away!! MIRACLE)

遼祐「みなさんこんにちは。パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じくこんにちは！パーソナリティの平沢唯です！」

遼祐「それにもしても……もう夏だね」

唯「だね～、もう毎日家でわたし『ロロロロ』してるよ～」

遼祐「だらけどるの……さて、今日のゲスト、紹介しますか。今日のゲストは、中野梓と、灘宮英樹さんです！」

梓「よ、よろしくおねがいします！」

英樹「よろしく」

唯「お兄ちゃんは、鮮血の刻印さんが作つてゐる小説『けいおん！』『argument』の主人公なんだよね！」

英樹「ああ、後、伝説・改先生との合作、『けいおん！Cross off Lives』の主人公の一人でもあるな」

遼祐「ちなみに俺もだぞ」

唯「凄いよね～、りょうくんとお兄ちゃんが同じ世界にいるなんて素敵だよ～。天国だよ～」

梓「私もです！」

遼祐「お前は英樹がいればどこでもいいんだろ？」

梓「な、そ、それは……まあ、いいえって言つたらウソになります」

英樹「……」（照れてる）

唯「二人ともラブラブだね～。わたしたちも負けないよ～！」

遼祐「（大丈夫かよ、今日のラジオ。ただのバカツブルのお話になるんじやね？）

唯「じゃ、最初の「一ナード」に行こ～！」

『『じ』』しおうかい』』な～！』

遼祐「この「一ナード」は、ゲストの人人が自己紹介をする「一ナード」です」

唯「じゃあ行こ～か、まずはお兄ちゃん！」

英樹「俺からか？梓からでいいんじゃないかな？」

梓「い、いえ。英樹さんからお願ひします……」

英樹「そうか？じゃあ……、名前は灘宮英樹で、今は大学の医学部に通つてゐる」

遼祐「へ～、んじや将来は医者なんですか？」

英樹「いや、科捜研に勤めたいと思つてゐるんだ」

唯「かそくけん？りょうくん、何それ？」

遼祐「お前ドラマとか見ないわけ？」

唯「うーん……崖っぷちのエーなら見てるよー！」

遼祐「……科搜研と言つのはだな、例えば殺人事件が起るんだろ？」

唯「うんうん」

遼祐「そんで、現場にある色んな物からDNAや指紋とかを分析して、犯人を割り出す手掛かりを見つけたりする人達の事……ですよね英樹さん？」

英樹「まあ間違つては無いな」

唯「凄いねお兄ちゃん！そんな所に行くなんて！かつー！」

英樹「そうかな？」

梓・遼祐「……」

唯「あ、りょうくんもりょうくんですっ！」

英樹「いや、違うんだ梓！これはだな……」

遼祐「んじゃ、次梓ね」

英樹「聞いてくれえ！！」

梓「中野梓です。軽音部で2年1組所属です。楽器はギターをします」

遼祐「そんで軽音部のいじられキャラパートっだ」

梓「そ、それは言わないでいいです！！」

唯「まあまあ、あづにゃんが可愛いんだよ」（ギュ）

梓「……ま、まあいいです」

英樹「……遼祐」

遼祐「……どうした英樹さん」

英樹「……梓、唯と結婚した方が幸せと思つてきた」

遼祐「奇遇つすね英樹さん。俺もそう思いました」

梓「英樹さん違うますよ！これはその……」

唯「じゃあ次のコーナーです！」

梓「唯先輩も否定してくださいよーーー！」

『みんなのしつもん』へなー!』

遼祐「このパートナーは、みなさんから頂いた質問に答えるパートナーです!」

唯「えつとじやあ早速最初の質問を……あ、鮮血の刻印先生からの質問だ!」

英樹「まさか、あの質問か……」

梓「どんな質問なんですか?」

唯「読むね。えつと……」

【最近はどんな番組を見ていますか?】

英樹・梓「普ツ」

遼祐・唯「何と言つシンク口率!? 流石バカツフル!…」

英樹「お前たちに言われたくはない!」

唯「……おほん、じゃ ありょうくんはどんなテレビ見るの?..」

遼祐「そうだなあ……ほとんどバラエティとドラマとアニメぐらいだな」

英樹「ニコースぐらい見る」

遼祐「いや、新聞読んでますし」

唯・梓「意外と読んでたんだ!?」

遼祐「失礼な。俺だってちゃんと世の中の事ぐらい分かるわい」

唯「ふうん。あ、バラエティとかドラマとか具体的にどんな見てるの?」

遼祐「そうだなあ……、あれだ。表にするといいんな感じだな。

月曜日 なし

火曜日 火 サプラ ズ た しのみんなの 学 ジヨー 一

水曜日 なるほ 百景 ねるのと ら

木曜日 いきな 一 黄金 説 捜研の

金曜日 ド えもん クレ ン shinちゃん Mス

土曜日 ちゃイケ

松 の な話 名探 コナン (録画)

でメジ ー)

日曜日 仮面ライ I W

戦国BASAR 式 サザ さん ま

ちゃん 鉄腕ダツ ュ

遼祐「こんな感じ」

梓「先輩らしさが全開ですね」

遼祐「いいだろうが！！好きなんだから！！！」

英樹「ドラマは俺が見てるのと一緒にだな」

遼祐「ジョ カーおもしろいですよね！」

英樹「科搜研も面白いよな」

梓「……話に着いていけない」

唯「まあまあ、じゃあ次の質問行こつか。はいあずにゃん」

梓「私が読むんですか？」

唯「うん」

梓「じゃ、じゃあ……、GST先生からの質問です」

【遼祐君、海以外に嫌いなものを教えてください】

梓「ですって」

遼祐「海以外で？あ～、暗いところ」

梓「意外とビビり！？」

遼祐「ビビリとは失礼な。とにかく嫌いなんだよ」

英樹「他には？」

遼祐「幽霊」

英樹・梓「(ビビりだ……)」

唯「(はづへ……ビビりなりょづくんかあいいよ～、お持ち帰りしたいよ～！)」

梓「他には何がありますか？」

遼祐「唯」

唯「えつ！？」（唯に電流走る）

英樹「じゃあなんで付き合ってるんだ」

遼祐「いや、嫌いなところもあれば好きなところもあるって意味ですよ」

唯「どんなところが嫌いなの！？」

遼祐「場所を構わずにスキンシップしていくと」。せめて教室はやめて」

唯「うう……」

梓「そこは遼祐先輩に同感です。私の教室に来た時も抱きしめてくるんですから……」

唯「うう……」

英樹「まあまあ、その辺にしてやれ。そこはまた今度別の機会で話しきをすればいいさ。そうだろ？遼祐」

遼祐「へ？あ、ああ、はい……」

梓「英樹さんがリーダーシップをちゃんと發揮してる……。かつこいい……」

英樹「あ、梓、あんまりここでそういう事を言いつな、恥ずかしい……」

梓「英樹さん、家で言つてもそんな反応するじゃないですか」

英樹「そつ、それはだな！！」

遼祐「あ～はいはい。んじゃ次行きましょうね～」

【遼祐君に質問何ですが、ダンボールに軽音部メンバー（猫//）
が入つていいたらそれぞれにどんな反応をしますか？】

遼祐「なんでこの質問を採用しやがったバカ作者！どう反応すりやいいんだ！！メンバーの内一人はそこにいるんすつけど！……」

唯・梓「じー」

遼祐「見つめるな！……」

英樹「俺も軽音部のメンバーの中に入るのか? できれば入れてほしくない」

遼祐「心配しなくとも入れませんから」

英樹「……よかつた」

梓「あ! でも英樹さんのネ^{ノミミ}も見てみたいですよ!」

唯「うーん、あつ! 似合つかも!」

梓「実はですね、英樹さんってこんな恥ずかしい格好を」

英樹「やめろおおお、梓あああ!」

遼祐「ま、まあね。うん。気にするなって。えっと、質問の内容だけど……」

唯「じゃあまず澪ちゃんから!」

遼祐「なんで澪から?」

梓「澪先輩、あたりまえって言つか……ネ^{ノミミ}似合ひんですよ」

遼祐「ふーん。……んじゃ襲うな」

唯・梓・英樹「……」

遼祐「なんだよその日! 嘘に決まってんだろうが! ! !」

唯「いや、でもりょうくんのそういう言葉は……」

梓「本気っぽいですから」

英樹「同感だな」

遼祐「あんまりだらうが! ! !」

唯「じゃあムギちゃんは?」

遼祐「紬ねえ……つて言つか案外紬の方が似合つてたり」

英樹「……あー、確かに分かる気が

梓「……」

英樹「……」

梓「……浮氣者」

英樹「すまん、悪かった」

遼祐「なんだろう、こいつらの未来が見えた気がする。一生尻に敷かれる様な気がしてきた」

唯「尻に敷かれるつて?」

遼祐「うおつほん、……ああ、紬のネ『//』の話だが、まあ多分その場になるどんな反応すればいいか分からんと思う。それに……」

英樹「それに？」

遼祐「……下手な事するどどつかの凌に怒られそうな気がして……」

英樹「……ああ、そつか」

梓「誰です？」

遼祐「紬の未来の嫁」

唯・梓「え！？」

英樹「嘘だ。本當かどうかわからないが俺たちはそつであつてほしいと勝手に願つてるだけだ」

梓「はあ……」

英樹「ごほん、それじゃあ次は律だつたらどうするんだ？」

遼祐「律かあ……なんだろうなあ、あいつは……まあ……ね、あいつもあいつで下手な事するどつるたい人がいるし」

唯「誰？」

遼祐「作者の弟。あと友人」

梓「ああ、そういうことですか」

唯「じゃあ、次はあづにやん！」

梓「わ、私もですか！？」

英樹「……どうするんだ？」（田が笑つてない）

遼祐「……大丈夫です。なにもしませんから。ダンボール閉じて英樹さんの所に送りますから」

梓「あ、それでお願いします」

英樹「はいっ！？俺も対処に困るんだが！？」

梓「その、先輩に私のネ『//』、見てもらいたいから……ダメですか……？」

英樹「……（ダウン）

唯「あづにやんも随分とレベルアップしたね」

遼祐「……レベルアップって言つか、作者の陰謀だろほとんど」

英樹「それじゃあ、最後は唯だが……」

遼祐「なんかいつのまにか生き返つてる！？」

唯「わたしは……なにやっても大丈夫だよ……？」

遼祐「……梓、」の後俺にネコミニ貸せ。唯、明日は学校休んで俺の家で

英樹「学校だけは行け。じゃあ次の質問へ。僚介先生から3つの質問の1つだな」

梓「いつのまにか英樹さんが仕切つてる！？」

【今後の政治の行方はどうなるのでしょうか？】

遼祐・唯・英樹・梓「……」

唯「ほ、ほらりょうくん、田じろ新聞読んでる力を見せる時だよ…？」

遼祐「ああ、えっと、そうだなあ……」

英樹「まあ議員の一人一人がどうするべきかだな」

梓「…？」

英樹「まず菅総理なんだが……」

(――から先はあまりにも英樹さんが喋りまくっているのでカットさせてもらいます)

英樹「……ぐらいだな」

遼祐「……俺が話す予定だったのに」

唯「ま、いいんじやないかな……？」りょうくん、分からなかつたんだから……」

梓「やっぱり、嘘だつたんじゃないですか」

遼祐「うるせえやい！ほつとけ！」とにかく、議員のみんなが協力しあうべきなんじやないかなと俺は思う」「

梓「急に話し始めた！」

遼祐「そりや、確かに色々言いたい事はあるかもしれないけど、そ

んでも同じ日本人として、自分の国の事ぐらいはきつちり協力してまとめられればいいなって俺は……」

唯「……か、かつこいい！」

英樹「いや、確かに前のお前の言つ」とも一理あるが……」

遼祐「アンタはもう黙つてください……次の質問行きますよ！」

【地球温暖化をくい止める方法は?】

遼祐「ほつしーと松岡修造とジャムプロを地球から取り除くべきだと」

梓「何の解決にもなりませんよー?つて言つたか誰ですかほつしーつて！」

英樹「俺たちにはレベルが高い質問なのかもな。じゃあ次へ」

【ボウリングは好きですか?あと最高スコアは?】

遼祐「ボウリングか……そいや、最近してねえなあ

唯「わたしはこの前憂と一緒に行つたよ！」

梓「どうだつたんですか？」

唯「えつと、憂が251点で……、わたしが145ぐらいだつたかな？」

英樹「どんだけ差が開いてるんだ!……まあ、憂はなんでも出来るから仕方ないか」

唯「酷いよお兄ちゃん!わたしだつて本気を出せば!」

梓「本気を出してあの点数ですか?」

唯「……あずにやあん、冷たいよ~」

遼祐「へいへい、分かったよ。ちなみに作者つて、192ぐらいだつたつて。俺は……最近やつてねえから分かんねえや」

梓「そう言えば、英樹さんとこの前行きましたねボウリング」

英樹「ああ、あれは酷かつた……」

遼祐「どうりが勝つたんだ?」

梓「英樹さん、本気出しすぎてる……唯先輩と豪のよつ酔いと思こますよ」

英樹「…………まあ、そういうことだ」

遼祐「案外、負けず嫌いなところがあるんだ英樹さん。それじゃ、次の「コーナーで~す!」

『けいおん』――いんふぉめ~しょん!』

唯「この「コーナーは、『けいおん』――の最新情報をお届けする「

――です!」

遼祐「他にも色んなこの小説家にならひつひつしての情報や、原作やアニメのけいおんの情報もお届けします」

唯「じゃあ、最初は……お兄ちゃんとあずにちゃん、お願ひしますか」

梓「はい、えつと、私たちが出演している『けいおん!』『Fairy ent』の最終回が公開されました」

英樹「是非、御覧ください」

唯「わ~い、最終回だよ、どうなるんだひつね? じょうづく~!」

遼祐「梓と怜奈に萌える話だった」

唯「…………え?」

遼祐「嘘だ。冗談だよ。すつざえおもしろいから、是非ご覧ください! えつと次は……」

唯「あ、そういうけばいおん」――の短編小説が公開されたよ!」

英樹「ああ、あれか。けいおん! Fの続きと呼ばれた」

梓「そうなんですか!?」

遼祐「作者が勝手にそんな裏設定作ってゐる」

唯「伝説さん、勝手にそんな設定作っちゃダメだよ……」

伝説「唯がそいつなら……」

「……」

遼祐「勝手に出でてるなーお前は外で見てろーー」

伝説「えー、鮮血さんも来てるぞ」

英樹「あーいつ……何やつてるんだ。ちやんと執筆活動しろよ

鮮血「ああ、ごめん」

遼祐「もういいからー!とつあえず伝説は出でつけーーあと鮮血さんもすいませんがご退場願いますーー!」

伝説「ちえー、せつかく来てやつたのに……」

遼祐「まつたく……」

英樹「以上、インフォメーションでした

『ゆいちゃんのかわいいせつふーーなー』

遼祐「この「一」は唯が可愛いと思つ様な台詞を言つ「一」です

唯「わーい!」(パチパチ)

遼祐「つまり俺得「一」です」

梓「本当に惚れこんでるんですね、先輩」

遼祐「ほつとけ。えつと、じゃあ台詞だけど……。あ、鮮血先生の投稿だな」

英樹「どつせロクなのじやないんだらつ……」

【私はじょうくんよりお兄ちゃん派です】

遼祐「唯、分かつてるな。言つたらお仕置きが待つて」

唯『私はいつもお兄ちゃん派です』（一ノナシ）

遼祐「……」

英樹「遼祐！落ち着け！！」

遼祐「英樹さん、ちょっと鮮血さん刺しててもいいですか？」

英樹「やめろ！」これは『冗談なんだから……』

梓「酷いです先輩！やつぱりシスコンだつたんですね……」

英樹「何の話だ梓！？俺は梓一筋だ！」

唯「りょうくん落ち着いて！わたしはりょうくん一筋だからー！」

遼祐・梓「……」（ポツ）

遼祐「……唯」

梓「……英樹さん」

英樹・唯「？」

遼祐・梓「……結婚しろ（してください）」

唯「え！？」

英樹「いやいや、ちょっと待て！まだ就職も決まってないのに……
第一俺たちはまだ学生で……」

梓「いやです。結婚しましょう英樹さん！」

遼祐「唯、子供の名前は柚^{ゆず}でいいよな？」

唯「！？……子供……」（パシュー、パタリ）

英樹「唯！？」

梓「さあ英樹さん、今からドレスを見に行きましょう！」

英樹「だから待て梓！…鮮血！…お前が変な事言わせるからこうなつただろうが！…覚えてろよーーー！」

（この後、二人ともなんとか冷静になりましたとぞ）

『ふり~と~く~』

遼祐・梓「取り乱してすいません……」

唯「なんだろ？、どこかで見たようなシーンだよ」

英樹「気にするな唯。見たんだから」

遼祐「それにしてもなあ、まさかねえ、英樹さんがシスコンだったとは。たびたび感想で言われてたけど」

英樹「だから違うと言つてるだろ！」

梓「まさか、先輩……私と憂や唯先輩の姿を重ねて」

英樹「なんでそうなる……あとその話し方だと唯と憂が死んだみたいだろ！」

唯「え？わたし知らない間に死んでたの？」

梓「……唯先輩は黙つてくれださー」

遼祐「それにしても、アンタら本当に出来て一日のカッフルなの？どう考へても前から付き合つてるようになしか……」

梓「だ、だつてそれは……、あの後英樹さんが……」

遼祐「ああ、そうか。やつちやつたか」

英樹「梓！誤解を招くような事を言つな……」

唯「……お兄ちゃん、すつ……」³⁵弄られてる

鮮血「元々そういうキャラですか？」

英樹「だからお前は出てくるな……」

遼祐「と言つ訳で、そろそろお別れの時間がやつてきました」

唯「あつという間だつたね～」

遼祐「どうだつたお一人さん」

英樹「色々言いたい事があるが……、まあ楽しかつたな」

梓「私もです！また機会があつたら是非呼んでください！」

遼祐「分かつた。そんじや今度は女装した英樹さんと一緒に……」

英樹「それだけはやめてくれ」

遼祐「ですよね」

唯「それじゃあ……」

遼祐・唯・英樹・梓「まつたね～！！」

36

第4回「仲が悪い奴ほど協力すると無敵」（前書き）

伝説

「今回の作業用BGM」

『Emphatic - REVOLUTION -』

『Zips』

『ふわふわ時間（唯ver.）』

遼祐

「誰も聞いてねえよそんな事！！
ラジオ、更新遅くなつてすいませんでした……。
バカ作者に代わり、お詫び申し上げます……。」

今回のゲストは、

『桜が丘高等学校に舞い降りたひねくれ者』放課後アンバランス
の主人公、瀬光紅凌くんと、琴吹紬ちゃんです。
ちなみに紬の口調が少しおかしいかもしません。注意してください。
紬つて口調が難しい……。

第4回「仲が悪い奴ほど協力すると無敵」

遼祐「……久しぶりのラジオだな」

唯「……だね」

遼祐「……作者、もうサボらない様にしてね」

唯「……だね」

遼祐・唯「……」

凌「お前ら、ラジオする気あんのか」

遼祐「おまえが来なかつたらする気は出てたな」

凌「ちつ、だから出たくなかったんだよ……」

遼祐「俺だつて出たくねえよ。つたく、なんであのバカこんな奴を作者ゲストで呼んだんだよ……」

伝説「アンバランスが今盛り上がりてくれるから」

遼祐「だから勝手に乱入していくなつて言つてんだらうがーー！」

紺「まあまあ。それより、お茶にしよ？」

遼祐・唯「はーい！」

凌「……ああ」

OP (Utau yo!! MIRACLE)

遼祐「もぐもぐ……こんちわ～、パーソナリティの日暮遼祐です」

唯「同じく、パーソナリティの平沢唯です！」

遼祐「さて……夏休み終わっちゃったよ。……」

唯「そうだね」……。また学校だよ。……」

遼祐「まあ、いよいよ学園祭だし、2学期も頑張りつぜ「うん！」

遼祐「さて、それじゃあ今回のゲストを紹介しましょーう！」

軌融慶先生が執筆中の『桜が丘高等学校に舞い降りたひねくれ者』放課後アンバランスのヒロイン、琴吹紬です！」

凌「おい待て、俺はどうした」

遼祐「え？お前モブキャラじゃなかつたつけ？（笑）」「

凌「……殺す」

遼祐「上等だ。表出る。いいかげん決着付けてや」「

唯「あ、メールだ」

紬「唯ちゃん、ラジオの時は電源を……」

唯「」めんね。あつ、お兄ちゃんからだ！」

遼祐・凌「英樹さん！？」

唯「えつと……一人とも、喧嘩せずにちゃんとラジオやってねだつて」

遼祐「……まあ、英樹さんが言つなら仕方ない」

凌「ちつ、今回だけだからな、お前と仲良くするのは」

唯「……なんでこんなに仲が悪いんだろう」「一人とも。

それじゃあ、最初のコーナー！」

『じ』じょうかいこーなー』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人が自己紹介をするコーナーです」

唯「じゃあ、最初は凌くん！」

遼祐「え、俺この前やつたじゃん」

唯「あつ！アンバランスの方の凌くんだよ。」

遼祐「なんだお前かよ」

凌「当たり前だろ。……って、自己紹介しないといけないのか？」

遼祐「まあ伝統行事だからな。諦め！」

凌「めんどせえ……。あー、瀬光紅 凌だ。以上」

遼祐「アホか！…もうちょっと紹介する事ぐらいあんだけ？」

凌「他に何があるんだよ」

紺「軽音部所属ですか！」

凌「それは別に紹介しなくても分かるだろ！」

遼祐「いやいや、紺が正しこぞ。みんながみんなアンバランスの事を知ってるわけじゃないし」

凌「……」

唯「りょうくん」

凌・遼祐「どっちの」

唯「……」「この」

遼祐「どした」

唯「……またメールだよ。お兄ちゃんかい」

遼祐「今度はなんだ」

唯「グダグダだって」

凌「こいつが悪い」

遼祐「お前がやつた言わないからだらうが！…」

唯「じゃあ、今度はムギちゃんと！」

紺「はー。えっと、琴吹紺って言こます。軽音部ではキーボードを担当します」

唯「ムギちゃんとアーティストになんだよね？」

紺「4歳の頃からしてたの」

唯「（ベトラン……ッ！）」（唯に電流走る……）

紺「あと、作曲も担当します！」

唯「ムギちゃんの作る曲つてすつじゅ可愛こよね～。凌ちゃんの歌詞も可愛いからどんどんこい曲が出来てないよーありがとねムギちゃん！」

細「ハハニ、飯にしないで。おへ、おと酔鶴のみんなが食べるね

「茶やお菓子も持つてきました」

は
...
」

遼祐「……なんか置いてけぼりくらつてね」

凌「お前のせいだ」

透視
いやでめえた
と「あえで」次の二十九で
菱「お前が、一〇〇萬」さなづダブダ母のか

遼祐「……ほつとけ」

『みんなのしつもんこーなー！』

唯「」のパートナーはみんなの質問に答えるパートナーだよー。」

遼祐「じゃあ早速行つてみよう!」
凌、頼む

療佑「今苏前が読めば、袖の評価は上がる

凌「今すぐ質問の紙を渡せ」

遼祐一計画通り！！

凌「えっと……ノンキさんからの質問」

【遼祐君に質問です。プロポーズするとしたらいつ、どうで、どんなシチュエーションでやりますか?】

遼祐「……………ビツの凌くん」

凌一お前への質問だ！！

「……………」
「……………」

唯「

遼祐「そんな眼で見ないでくれ。なんか恥ずかしい。

えつとだな……、やつぱいんな感じだな

妄想タイム

遼祐「……そいや、ここでお前と会ったんだよな」

唯「そうだね。この樹の下でわたしが座ってるのをつょいくんが見つけたんだよね」

遼祐「もう7年か……なあ唯」

唯「ん？」

遼祐「大学も、卒業した事だし……。あ、その……。結婚、するか？」

唯「……いいの……？」

唯「うん！」

遼祐「ありがとな、唯……」

唯「幸せに、してね？」

遼祐「お互い協力しあえばな

唯「うん……！」

遼祐「……ムフフ」

凌「こいつ、目が逝ってる……一常人の神経じゃねえ、切れてやがる……！」

唯「……嬉しいなあ、そんな感じなら。でも」

遼祐「どした？ 何かあるか？」

紬「ダメ……」

遼祐「……は？」

凌「紬？」

細「あまりにも普通すぎて逆に感動が薄れちゃってる…もう少しぬつとかつこいいプロモーションを!!!」

遼祐「……………分かつた。分かつたから

「じゃあ、本番の時はよろしくね？」

遼祐「……はい。じゃあ次の質問、紬よろしく」

紺「はーい。えっと……陽亮さんからの質問！」

【けいおん! 原作終了についてどう思いますか?】

遼祐・凌「……マジ?」

こつからは一人だけの世界（決してBL的な意味じゃないよ！）

遼祐「待て待て、落ち着け。つまりあの漫画版の唯に会えないのか

... ! ?

遼祐「嫌だ……、唯……頼む、行かないでくれ……！」もう一度、
せめて原作初期の一ノゾバージョンで歸つて来てくれ
！！！

凌「おい遼祐……分かつてるな

遼祐「一時休戦だ。今からかきふらいを殴りに行くぞ。なんとして

でもけいおん！を続けさせるぞ……ー！」

以上

唯「あ、お兄ちゃんからメールだ」

紬「今度は？」

唯「えっとね、かきふらこ先生を倒しちゃつたら自分たちも消えちゃつよだつて」

紬「……流石、英樹さんですね。いつもの通り冷静です。以上、質問コーナーでした」

『けいおん』——いんふぉめしょん!』

遼祐「……なんかお知らせある事ある?」

凌「お前のとこの小説の情報とか」

遼祐・唯「……」

凌「悪い」

遼祐「せつこうお前のとこりだつて……」

凌「……」

遼祐「『めん。悪かった。謝るかい』

紬「9月9日発売の『まんがタイムきらら』で、『けいおん』が完結します」

唯「ついに感動の最終回……。みんな、買ってね!」

紬「唯ちゃん、勝手に宣伝しちやつて大丈夫かしら?」

唯「大丈夫だよムギちゃん。前もしてたから。以上、インフォメーションでした!」

『ゆいちゃんのかわいいせりふ』——』

遼祐「このコーナーは唯が可愛いく思つ様な台詞を言ひコーナーです

唯「わ~い!」(パチパチ)

遼祐「つまり俺得コーナーです」

凌「この前のも見たぞそれ

遼祐「デジャヴだよそれは。デジャヴのヴの発音が難しいぜ」

凌「うぜえ……」

紬「今日はどんな台詞なの?」

唯「えっとね……」

【りょうくんはわたしの大切な人だから、みんな取らないで（涙目で）】

遼祐「……待つてました。待つてしましましたよこいつの……」

この前のあれは酷かつたが、今回は違う！…俺は無敵だ！強くて賢い！リア充だああああ！！！」

凌「……こんな奴が唯の彼氏なのかよ」

紬「でもかつこいいところはかつこいいから、そこを唯ちゃんは好きになつたんじやないかな？」

凌「まつ、待て！今遼祐の事……」

紬「え、どうしたの凌くん？」

凌「……鬱だ、死のう」

遼祐「まあまあ、落ち着けつて凌。今度飯おじついやつから」

凌「お前に奢られるくらいなら緋龍に奢つてもらひ。……いや、あいつにも奢られたくねえな……」

遼祐「あー、お好きにどうぞ。さて、それでは緋ちゃん…どうぞー！」

「！」

唯「りょうくんはわたしの大切な人だから、みんな取らないで……（涙目）

遼祐「うがつ……ッ！！！」

凌「遼祐が萌え死んだ……。まあこいつらしい最後なのがもな」

唯「りょうくん！…死んじゃやだあああ……」

紬「やっぱラブね、二人とも」

凌「……俺も、二つか……」

紺「どうしたの？」

凌「……なんでもねえよ。んじゅ、このコーナー終わるな」

遼祐「かつては……お前が……司会やってんじゅねえ……！」

「！」

遼祐「と云つて、そろそろ終わりの時間が迫ってきました」「凌「お前」「コーナーが移る間に何があつたんだよ！？なんで復活してんだよ！？」

遼祐「……まあ、色々とね」

唯「大人の事情つて奴だよ！えつへん！」

紺「唯ちゃん、威張つて言つ様な事じやあ……」

凌「しかも何か使い方が間違つてゐるぞ」

唯「二人とも、どうだつた？」

遼祐「（話をそらした……）」

紺「すつしぐ楽しかつたです！また呼んでね！」

凌「……まつ、よかつたんじゅねえの」

遼祐「素直じやねえなあお前」

凌「つるせえよ、黙つてろ」

遼祐「……まあ、これからもよろしくな、回じオリ主として」

凌「……ひさ」

唯「じゃあ、りょうくんと凌くんが仲直りしたと云つて事で……」

遼祐「なんか面倒だなふたりもりようがいると。お前改名して」

凌「お前がな」

伝説「まあまあ一人とも、喧嘩はよせつて」

軌融屢「なんであんなに仲が悪いんだろうあの一人

凌「なんでお前がいるんだよ、あっち行け！」

遼祐「伝説も消えろ！……つたく、何やつてんだあいつ……
唯「え、えっと……それじゃあ気を取り直して……」

唯・紬「またね～！～！」

声の出演

日暮遼祐 前野智昭

平沢唯 豊崎愛生

瀬光紅凌 櫻井孝宏

琴吹紬 寿美菜子

伝説・改 清水秀光

軌融屢 小野大輔

遼祐「何勝手にクレジットしてんだよーー！そんで勝手にこゝ決める
な！！」

伝説「いやいや、鮮血さんの活動報告でこゝ決めてたし

遼祐「……パトラッショ、僕はもう疲れたよ

第5回「ハーレムは男のロマン」（前書き）

遼祐
「タイトルがあんまりだろ？」「……」

伝説
「まあまあ。……それで」

遼祐・伝説
「ラジオ一か月もほつたらかしにしてすいませんでした……」

伝説
「これからは、週に1回は必ず投稿いたします」

遼祐
「なんでもほつたらかしだったんだよ？」

伝説
「本編とかで……」

遼祐
「言ひ詫はよろしく……」

伝説

「……とにかくすいませんでした！」

それと、SUSHI先生、翔くんをひょっといじつきましたー。すいませんーー！」

遼祐
「……それでは、どうぞ」

伝説

「今回のゲストは、SUN先生が執筆中の小説『K - O N - I - N』
EXT EPISODE の春藤翔くんです！」

遼祐

「……ひとりだけ？」

伝説
「はい」

第5回 「ハーレムは男のロマン」

遼祐「突然ですが問題。ここ最近、映画化されるとが決定した、もしくは上映中のアニメ全て答えなさい」
唯「え？ と、戦国BASAR でしょ、ガンム〇〇でしょ……あれ？ まだあつたかな？」

遼祐「…………けいおん！だああああああああ！」
唯「あつ、そうだつた！」

遼祐「つたく、自分の作品を忘れるなよ」

「でも誤解するのよ……」「あん」「あん」

シナックス

「そつか……はしゃいでごめんね？」

遼祐「いいよ、気にすんなつて」

翔「……あの、そもそも始めましてよ、一人とも……」

遼祐「皆さんこんにちは、パーソナリティの田畠遼祐ですー。」

唯「同じくんには、平沢唯です！」

遼祐「さて……やつてまいりましたLOVE!LOVE!RADIO!略してL-L-R!……更新遅れちゃつてスマセン……」

唯「まあ、しょうがないよ。先生が存在そのものを一時期忘れちゃつてたんだもん。（実話）」

遼祐「存在を思い出させてくれた友人に改めて感謝のお言葉をお送りします。んじゃ、今回のゲストを紹介します！」

唯「今日のゲストは、今が旬のFF小説、『K-ON!!』NEXT EPISODE』の主人公、春藤翔くんです！」

翔「よ、よろしくお願ひします！」

遼祐「まあまあ、緊張すんなよ。気楽にやれって」

翔「いや、その……なんかまさか俺がラジオに出れるなんて思つてなくて」

遼祐「何言つてんだよ。このラジオだつてそんなとんでもない人氣があるラジオつて訳じやないんだから」

唯「……言つてて寂しくなつたよりようくん」

遼祐「同じく……」

翔「は、ははは……それじゃあ、お馴染みの最初の「コーナーです」

『『じいじょうかっこなー』』

遼祐「この「コーナーは、ゲストの人が自己紹介する「コーナー」です」

唯「じやあ翔くん、お願いします」

翔「えつと、春藤翔つて言います。軽音部所属で、ドラマやってます」

遼祐「珍しいよな、ドラムの主人公って」

翔「梓達がメインのストーリーですかね。ドラムがいないから、俺がやつてます」

唯「そっか～、わたしたちが卒業した後のお話なんだね」

翔「ホント……疲れます（色々な意味で）」

遼祐「そうか。既にハーレム状態になつていた

伝説「帰れこのH口主人公」

遼祐「……お前が帰れッ！！」

翔「最近、作者の人がよく来ますね」

遼祐「迷惑以外の何物でもないわ畜生。ところで、なんで今回ひとりなんだ？」

翔「……お察しください」

遼祐「^ヤ了解」

唯「お誕生日はいつなの？」

翔「ああ、8月26日です」

遼祐「つーことは乙女座か」

翔「……ですが何か？」

遼祐「乙女座の私は、センチメンタリズムな

『みんなのしつもんこ』な～！」

遼祐「つて途中で終わらすなあああ……！」

唯「まあまあ。」この「一ナーハーは、盥せんから頂いた質問に応える」
一ナーハーです」

翔「じゃあ、早速行きますか」

遼祐「だな。んじゃ最初の質問。これは鮮血の刻印さんからの質問
だな」

【唯に離婚届を渡されたら、遼祐くんはどうしますか？】

遼祐「……」（バタリ）

翔「こんな感じになります」

唯「だ、大丈夫りょうくん！？」

遼祐「……柚の事、頼んだぜ」

K - O N - ! - N E X T E P I S O D E 遼殺し編 完

翔「……終わらすなつ！！」

遼祐「ですよね～」

唯「……でも、渡されちゃつたら本当にビリゅるの……？」

遼祐「……」（パタリ）

唯「りよ、りょくくん！？」

翔「……さつきのがちゃんとした反応だつたのか……。えへ、結論
は『氣絶する』です。それじゃあ次の質問」

【自分の彼女が、他の男性と歩いていたりしている?】

遼祐「……」(ぶくぶく)

唯「りょうくんが泡吹いたよ!!」

翔「これも鮮血の刻印先生からの質問だな。……あの人、遼祐の事嫌いなんだろうか?」

遼祐「せんせいじゃなくて……、霧明と英樹さんだろ……」

翔「生きてたんですか!??」

遼祐「勝手に殺すな!! そんなに死んでほしかったか!??」

翔「い、いやそうじゃなくて……。まあ生きてて良かつたです」

遼祐「で、お前はどうなんだよ?」

翔「いや、俺彼女いませんし……」

唯「じゃあもしいたらと言つ事で!..」

翔「えつと……。ブクブク」

遼祐「だあああ!! 翔、大丈夫かあああ!??」

K - O N ! ! N E X T E P I S O D E 翔殺し編 完

遼祐「だから終わらすなつちゅうに!! まあ、結論は一人とも気絶すると言う事で」

翔「……まあ、気絶は冗談として」

遼祐「んじゃどうするんだよ」

唯「突っ込まないの!?」

遼祐「こればっかりは突っ込んだら負けだと俺は思ってる。そんで、

どうなんだ翔？」

翔「とりあえず、俺は真相を聞きますよ。もしかしたら何か事情があるかもしれません」

遼祐「俺は……その場でそいつに掴みかかるだらうな『唯』もしお兄ちゃんだったら？」

遼祐「……まあ、うん。そん時はそん時だ」

翔「怖いんですね、やっぱり英樹さんの事……」

遼祐「義兄だからな。まあ、そんな事は無いと思ひけどな」

翔「以上、質問コーナーでした！」

『しんすと～り～ていあんこ～な～！』

遼祐「さあ、今回から始まりました新コーナーです！」

唯「このコーナーは、日常ほのぼのである『けいおん！』が、もしこんなストーリーだつたら？と言つコーナーです！」

翔「……何に感化されたんですか？」

遼祐「こらこらそこ、変な事言わない。試験中は静かに

翔「どこが試験ですか！！これが試験だつたら俺らもう既に全教科0点だ！！」

唯「ナイスツツコミ！流石主人公だね！」

翔「……もうやだ」

遼祐「さて、今回のテーマはこうじー！」

遼祐「……既にやつてるね」

唯「やつてるよね」

翔「やつてますね」

遼祐「……ま、まあ気にするな。とつあえず、どんな感じになると
思う?」

唯「そりだなあ……やつぱいんな感じかな?」

遼祐『さあ、始めようか……終わらない戦いつて奴をよ……』

和哉『ふははははは！貴様がこの俺に勝てるとしても思つてゐるのか！

?この下等人種がつ……』

遼祐『てめえ……、いつまでもそりやつて人を見下しやがつて……
生きて帰れると思うなよ！？』

和哉『な、なんだ……？体が、紫色に……』

遼祐『貴様には分かるまい！この俺の、体を通して出る力が……』

和哉『き、貴様……！…』

遼祐『お前は生きていってはいけない人間なんだ！！一方的に撃たれ
る、痛さと怖さを教えてやる！…』

和哉『くつ、貴様の魂もいつしょに連れていぐ！…』

遼祐『いけえ……』

和哉『ぐはあつ……』

遼祐「……俺がまんまカミー な件について」

唯「ううん、やっぱダメかな……」

遼祐「これはむしろ翔が主人公の方がいいだろ」「なんで俺なんっすか！？」

翔「いや、なんとなくその辺の分野が強そうだし」「なんで俺なんっすか！？」

遼祐「いや、なんとなくその辺の分野が強そうだし」「俺、バトル系漫画の主人公じゃありませんよ！？ほのぼの軽音楽小説の主人公ですよ！？」

遼祐「大丈夫だろ。バットか鉈があれば問題ねえよ」

翔「バトルって言うかそれサスペンスホラーになつてますよ！？」

遼祐「……まあ、あれだな」

翔・唯・遼祐「『けいおん！』に『バトル』は合わない」

遼祐「素人が手を出していい組み合わせじゃないみたいだな」

唯「もつと文章表現にストーリー構成、つまり文才が無いとダメだつてことだね」

翔「……ですね」

伝説「そうか。俺は文章力があつたのか」

遼祐「歯あ食いしばれ！そんな作者、修正してやるーー！」

『ゆいちゃんのかわいいせりふーーなーー!』

遼祐「このコーナーは、俺得コーナーです」

翔「めんどくせくなつて略しましたよね！？」

遼祐「気にしたら負けだ。さて、今日はどんな台詞かな～？唯～、おねが～い

唯「」解しましたーえっと、今日は……

【おかえり、りょうくん。
突然だけど、離婚しよう。】

嘘だよ、りょうくん。 今日はエイプリルフールだよ】

嘘だよ、りょうくん。
今日はエイプリルフールだよ。

遼祐「ぐわらつばー！」

翔一 わあああ!!! 遼祐さんが吐血した!!!

「最後の一回、舞ペシチノ、鳥居の

遼祐…………最後に 指ハツチン 嘴らしたかた…………〔ハチン〕

「うううううううううううううん……。」

K - O N ! ! N E X T E P I S O D E
遼殺し編 完

翔「もう飽きたわ！！いいかげんにしろーー！」
遼祐・唯「以上、可愛い台詞コーナーでした～」
翔「生き返ってるしーー！」

翔「生き返ってるし……」

翔「生き返ってるしー！」

翔「……なんか、疲れた」

遼祐「お疲れさん。向こうでも頑張ってくれ」

唯「まあまあ。ぬい、憂とおなじやうど繰りやくじを幸かにね」

翔「俺は……ハーレム決定なんですか……？」

SUN「その通りだ！」

伝説「頑張れ翔くん！お前がナンバーワンだ！」

翔「もう嫌だああああああああああ！」

遼祐
流石に可哀想だな。
すまんかつた翔

ましろかわ

遼祐「ですよね」

「……………唯一それじやあ

遼祐・唯・翔「まつたね」！」

第6回「主人公×彼女×彼女 ドキドキフルスロットル!」（前書き）

浩史

「タイトルが色々な意味で酷くない?」

伝説

「気にするなボーイ」

浩史

「いや気にするよ。そしてこんな事して大丈夫なの?下手すると読者があれちゃうよ?」

伝説

「……その時はその時さ」

浩史

「ダメだこりゃ……」

第6回「主人公×彼女×彼女 ドキドキフルスロットル！」

遼祐「大事な発表がある」

唯「なになに？」

遼祐「もう気づいてる人はいるかもしれないけど、今回からこのラジオのタイトルが変更となつた」

唯「まだ始めて六回目だよ！？」

遼祐「大丈夫さ。某ラジオは最初の頃は1回ごとにタイトル変えてたんだ」

唯「そうなんだ。じゃあ安心だね」

遼祐「まあ安心かどうか知らんが……まあいい。さて、もうひとつ」

唯「？？」

遼祐「……パーソナリティがもう一人増える……」

ざわ……

ざわ……

唯「なん……だと……！？」

遼祐「誰か知りたいか？まあ、タイトル見れば大体予想付くだろううけど」

唯「え、でもそしたら色々と批判も出てくるかもしれないよ?『なんでこいつなんだ』とか『なんであれと合体させた』とか」

遼祐「いやいや、確かにそうだけだ。作者は『うすればわざわざ専用のラジオを一つ付く』必要が無くなるからって事で『唯「結局楽をしたいだけ!』」

遼祐「まあ、本当は『けいおん!』が好きな人には『なのは』を。『なのは』が好きな人には『けいおん!』に興味を持つてもらいたいなあって思ったからだよ。

じや、今回のゲスト、もとい次回から新たに加わるパーソナリティの、八神はやてさんです!」

はやて「やつほ~。一人とも、今日からよろしく頼むな~」

唯「おお、アニメ史に残る出会いだよこれは!」

遼祐「アニメじやねえし。つてか、歴史には残らねえよ。じゃあ、オープニングも変えて心機一転!」

唯「『けいおん!&リリカルなのは』...」

はやて「『LOVE!-GENE!-RADIO!』...」

遼祐「始まるよ~!」

OP (PHANTOM MINDS)

遼祐「皆さん!『にちば~!』『けいおん!』『LOVE!』『LOVE!』『IVE!』『魔法少女リリカルなのは』『lyrical Generation』の主人公、パーソナリティの田暮遼祐です!」

唯「同じくこんにちは!『LOVE!』『LOVE!』『IVE!』ヒロインの平沢唯です!」

はやて「こんにちは！」『Lyric Generation』

ヒロインの八神はやで～」

遼祐「それにも……いきなりこんな事言つのもあれだけ、はやて出でても大丈夫なのか？まだメインヒロインなのに全然出でねえし」

はやて「大丈夫やで。2nd seasonになつたら遼祐くん差し置いて活躍やから」

唯「まさかの主人公解雇！？」

遼祐「なわけあるか！はやても適當な事言つな！」

はやて「は～」

唯「そう言えば、はやてちゃんは今日はゲスト扱いなんだよね？」

はやて「そうやね。次回からはパーソナリティとして出演やね。言う訳で、次回からよろしく頼むな、唯ちゃん」

唯「うん！」

遼祐「もう仲良くなつたのか。これで修羅場は回避できる……」

唯「ん？なんか言つたりようくん？」

遼祐「なんでもねつす。じゃ、最初に行つてみるか、あのコーナー

『じょつかこなー』

遼祐「このコーナーは、ゲストの人気が自己紹介するコーナーです」

唯「じゃあ、はやてちゃん！お願いします」（ペコッ）

はやて「了解。えつと、八神はやで言います。一応、19歳バージョンでの登場やから、一人より年上やね」

遼祐「何を言つか。このラジオでは年齢なんて関係ないんだぜ？」

はやて「あつ、そりなんや。ほな9歳バージョンに戻すな」

唯「姿を自由に変えれた！？」

遼祐「お前も出来るんだぞ」

唯「そうなの？じゃあ……」

遼祐「おお、幼女バージョンの一人だ」

伝説「このロリコーン」

遼祐「そのふざけた幻想をぶち殺す！…」
はやて「あつ、作者さんも出るんやな」

唯「うん、たまに出てくるんだよ」

遼祐「ぶっちゃけ邪魔だ。以上、自己紹介コーナーでした」

『みんなのしつもん』へな～!』

遼祐「このコーナーは、リスナーと書い名の読者の皆さまからいた
だいた質問にお答えするコーナーです」

唯「質問は感想の方で『応募ください』」

遼祐「んじゃ、最初の質問。ノンキ先生からりますね。『応募ありが
とう』『わざわざ…』」

【もし憂ちゃんが唯さんの格好していたら見破れる自信はあります
か？】

遼祐「もちろんさあ。1期で見破つてたけど、胸の大きさが違うか
らな」

唯「……」

唯一クギイイイイイー！

療祐「ビ、ビした唯！？何故

唯「憂は仕方ないもん！わたしよりしつかりしてるし、可愛いから

中学校の時からモテてたし

はやで、そうやつたんやな……。せやから彼田でも出来てす」と

透社 そつだな もん

放送H=エレクトロニクス! ? 「かかはれぬいへん」

はきて一氣にしたゞ負けて唯せやん
そこまへて胸が少しけんせう

療右「心配あるな。

「……話がずれてるよ。じゃあ、次の

です！」応募ありがとうございます！」

【明日が地球最後の日だつたらあなたはどうしますか？家族をどうしますか？友情をどうしますか？それとも…】

「前回の野球最後の原因新規開拓」

はやて「それは無理やで、遼祐くん」

「遼祐、そんなふうにあれたら、俺のやはり愛を取るよ。」

療祐「可放見てくるし。一人とも取るが」

「シーラー」・解説

遺稿・なんて分かりやすいと書かなんといふが……以上質問

『いんふおめ～しょん！』

遼祐「本編でも語りましたが、――は4月をもちまして完結いたします」

唯「残念だなあ……もひとつくとこにつけたかったよお
はやて「まあ、始まりもあれば終わりもある。せやう?」

遼祐「そうだな。それに、本編終わっても短編集とかでも俺たちの
活躍は続くよ」

唯「ほんと!? わーい!」

遼祐「あとは……そうだな、――の後の新小説、決定いたしました」

はやて「どんなのなんや?」

遼祐「それを言つたら面白くなくなる。楽しみにしてな。詳細は後
日と言つ事で」

唯「楽しみだなあ。あ、またりょうくんが主人公?」

遼祐「残念ながら、今回はオリ主小説じゃなくてクロス小説だ」
はやて「クロス小説なんやあ……、楽しみやな」

遼祐「ま、期待して待つてくれ

遼祐「と書ひ訳で、そろそろお別れの時間がやつてきました」

唯「はや!」

遼祐「くねえだら。いや、今までに比べたら早いな。情けない……
はやて「まあまあ、来週から頑張ればえことやん。それじゃ、二
人とも改めて来週からよろしく頼むな」

唯「うん!」

遼祐「了解つと。それじゃあ、皆さん

唯・はやて・伝説「さよなら~

遼祐「なんでお前がいるんだよーーー！」

声の出演

日暮遼祐	前野智昭
平沢唯	豊崎愛生
八神はやて	植田佳奈
伝説・改	清水秀光

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9781m/>

けいおん!&リリカルなのは LOVE!GENE!RADIO!

2011年2月2日18時03分発行